

国名勝「おくのほそ道の風景地」
けいの明神

北陸道絶鎮守 越前國一之宮

氣比神宮

KEHIJINGU

御由緒・参拝案内

(境内散策絵図掲載)





御祭神／御神徳

いざわけのみこと

伊奢沙別命

衣食住全般・海上安全・農漁業・交通安全

ちゅうあいてんのう

仲哀天皇

無病息災・延命長寿・武運長久

じんぐこうごう

神功皇后

安産・農漁業・海上安全・無病息災・延命長寿・武運長久・音楽舞踊

おうじんてんのう

応神天皇

海上安全・農漁業・無病息災・延命長寿・武運長久

やまとたけるのみこと

日本武尊

武運長久・無病息災・延命長寿

たまひめのみこと

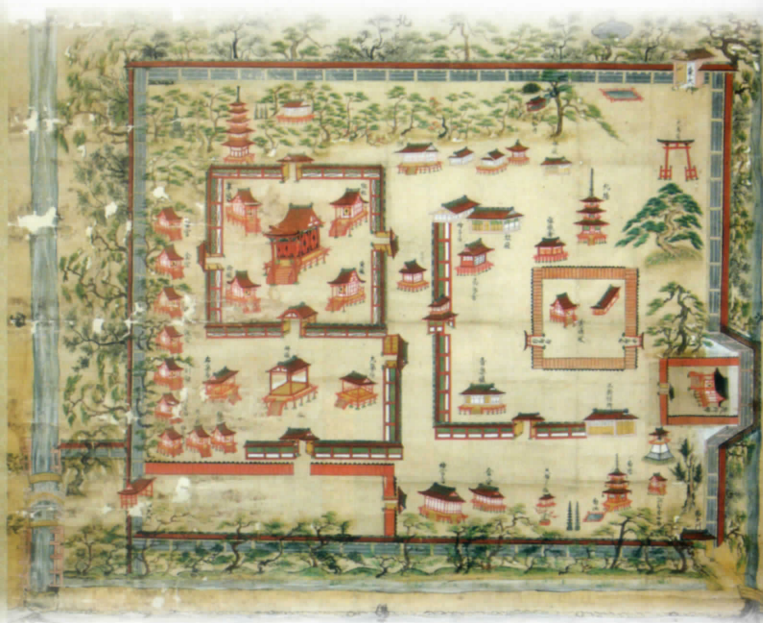
玉姫命

音楽舞踊

たけのうちのすくねのみこと

武内宿禰命

延命長寿・無病息災・武運長久



氣比神宮古図

[室町時代]

敦賀市指定文化財(市立博物館收藏)



内拝殿

由緒沿革

伊奢沙別命は、筒飯大神(けひのおおかみ)、御食津大神とも称し、2千有余年、天筒の嶺に靈跡を垂れ境内の聖地(現在の土公)に降臨したと伝承され今に神籬磐境(ひもろぎいわさか)の形態を留めている。上古より北陸道総鎮守と仰がれ、海には航海安全と水産漁業の隆昌、陸には産業発展と衣食住の平穩に御神徳、靈驗著しく鎮座されている。仲哀天皇は御即位(192)の後、当宮に親謁せられ国家の安泰を御祈願された。神功皇后は天皇の勅命により御妹玉姫命(たまひめのみこと)と武内宿禰命(たけのうちのすくねのみこと)を従えて筑紫より行啓せられ参拝された。文武天皇の大宝2年(702)勅して当宮を修営し、仲哀天皇、神功皇后を合祀されて本宮となし、後に、日本武尊を東殿宮、応神天皇を総社宮、玉姫命を平殿宮、武内宿禰命を西殿宮に奉斎して「四社之宮」と称した。明治28年3月26日、神宮号宣下の御沙汰により氣比神宮と改められた。延喜式神名帳(えんぎしきじんみょうちょう)に「越前國敦賀郡氣比神社七座並名神大社」とあり、また朝廷からの御崇敬は特に厚く伊勢の神宮と並び四所宗廟の一社に数えられた。中古より越前國一ノ宮と定められ、明治28年、官幣大社に列せられ、一座毎に奉幣に預ることとなった。当神宮の神領は持統天皇の御代より増封が始まり、奈良時代を経て平安朝初期に能登国の沿海地帯は当神宮の御厨(みくりや)となった。渤海使(ぼっかいし)が相次いで日本海沿岸に来着したので神領の氣比の松原(現国定公園・日本三大松原)を渤海使停宿の処として、天平神護2年(766)勅によって松原客館が建設され、これを、氣比神宮宮司が検校した。南北朝争乱の延元元年(1336)大宮司氏治は、後醍醐天皇を奉じ金ヶ崎城を築いて足利軍を迎え奮戦したが利



本殿

あらず一門ことごとく討ち死し、社領は減ぜられたが、なお、二十四万石を所領できたという。元亀元年(1570)4月大神司憲直等一族は越前国王朝倉氏の為に神兵社僧を発して織田信長の北伐を拒み、天筒山の城に立籠り大激戦を演じたが、遂に神宮寺坊は灰塵に帰し、48家の祠官36坊の社僧は離散し、古今の社領は没収され、祭祀は廃絶するに至った。慶長19年(1614)福井藩祖結城秀康公が社殿を造営されると共に社家8家を復興し、社領百石を寄進された。この時の本殿は流れ造りを代表するもので明治39年国宝に指定されたが戦災(昭和20年7月12日)により境域の諸建造物とともに惜しくも焼失した。その後、昭和25年御本殿の再建につづき同37年拝殿、社務所の建設九社之宮の復興を見て、祭祀の厳修につとめたが、近年北陸の総社として御社頭全般に亘る不備を痛感、時代の趨勢著しいさ中、昭和57年氣比神宮御造営奉賛會が結成され「昭和の大造営」に着手、以来、本殿改修、幣殿、拝殿、儀式殿、廻廊の新設成り、旧国宝大鳥居の改修工事を行ない、平成の御代に至って御大典記念氣比の杜造成、四社の宮再建、駐車場設備により大社の面目を一新。更に国家管理時代の社務所が昭和20年の戦火で焼失し、その後敦賀区裁判所の庁舎を移築、長く利用してきたが、老朽化により已むなく解体、平成23年6月大社に相応しい格式ある総木造社務所が新築落成した。



外拝殿



社務所

文化財指定

大鳥居 (重要文化財指定 日本三大鳥居)

境内図 A

高さ 36 尺 (10.9m) 柱間 24 尺、木造両部型本朱漆。寛永年間旧神領地佐渡国鳥居ヶ原から伐採奉納した榎樹(むろのき)で、正保 2 年 (1645) 建立した。(初代の鳥居は弘仁元年 (810) 境内東側にて創建されたが、康永 2 年 (1343) 暴風で倒壊となり、後に現在の西側の地に再建された。) 明治 34 年国宝に指定され、現在は国の重要文化財である。正面の扁額は有栖川宮威仁親王(ありすがわのみやたけひとしんのう)の御染筆である。昭和 20 年 (1945) の敦賀空襲では唯一その戦火を免れている。平成 29 年、貴重な文化財を永く後世に護り伝えるべく約 30 年周期の本朱漆塗替え及び修繕工事が施される。他に、敦賀市指定文化財として、能面尉、猿田彦面、室町時代に描かれた氣比神宮古図(市立博物館寄託)、昭和 11 年 (1936) 当時陸軍関係者が武運を祈願して献木された敦賀市指定天然記念物ユーカーリ樹がある。慶長 19 年福井藩主結城秀康造営の国宝本殿(昭和 20 年焼失)は、屋根両流造の代表的建造物であった。その虹梁には、二つに割れた桃の実の中に陣羽織を身にまとった桃太郎が刻まれ童話の起源を物語る。桃山時代の貴重な作品として知られている。



大鳥居 [重文]



能面



猿田彦面

敦賀市指定文化財 [室町時代]



国宝旧本殿(昭和 20 年焼失)行梁に刻まれた桃太郎像



[花 5月]

天然記念物ユーカーリ

境内図 B

境内

土公 [どこう] 境内図 C

氣比神宮境内全域 11,253 坪。天筒山の方角、神宮北東部に残る「土公」は氣比大神降臨の地とされ当神宮鎮座にかかる聖地である。社殿家屋建立の時、「この土砂を其の地に撒けば悪しき神の祟りなし」と信ぜられる伝説と神秘に富む神代の述霊。古い時代における多くの祭祀の形態は神籬磐境(ひもろぎいわさか)と呼ばれ、大きな岩を中心とした山での祭祀、大木を中心とした森での祭祀など自然の形を損なうことなく祭祀が営まれた。仏教伝来による寺院建築の影響もあり、奈良時代から現代のような社殿を建て祭祀を行うように変化した。当神宮創祀は 2,000 年以上の神代に遡り、当初は現在の土公の地で祭神を祀ったと云うが、大宝 2 年 (702) 朝廷御関係の神々を合祀、現在のような社殿の元が建立され祭祀がなされた。御社殿建立後も土公は当神宮の古殿地として手厚く護られ、平安時代の名僧伝教大師最澄、弘法大師空海は当大神に求法の祈誓をかけこの土公前で 7 日 7 夜の大行を修したと伝えられる。



土公

旗掲松 [はたかけのまつ] 境内図D

南北朝争乱時代の延元元年(1336)当神宮宮司氣比氏治が南朝後醍醐天皇を奉じ氣比大明神の神旗を掲げたと云う「旗掲の松」。金ヶ崎城を築いて足利軍に対し奮戦したものの、一門ごとごとく討ち死す。今でも旧根が朱塗中鳥居前に残り二代目が成木として雄々しく育つ。



旗掲松

「旗掲の松は 幾千代あふがれて
君につかふる道をしへけん」 賀茂縣主

長命水 境内図E

大宝2年(702)、氣比神宮はそれまで伊奢沙別命(いざさわけのみこと)(氣比大神)1柱を祀る神社であったが、文武天皇の勅命で大神との神縁により仲哀天皇・神功皇后・日本武尊・応神天皇・玉妃命・武内宿禰命の神々が合祀され、祭神は七柱とされた。その際、社殿を修営するが、途中突然として地下水が噴出したと伝えられる。合祀された神々、特に武内宿禰命は大変長生きの神である為、御神徳が宿る神水として信仰され、1300年以上の長きに亘り今に「長命水」の名称で親しまれている。近年ではパワースポットとして多くの参詣者がここを訪れ、境内名所の一つとして賑わいを見せる。



長命水

おくのほそ道の風景地 けいの明神

平成28年10月、氣比神宮境内地の全域が県内で初めて国の名勝「おくのほそ道の風景地」に指定される。俳人芭蕉は「おくのほそ道」の旅において、月を詠む事が目的の一つであり、杖置き地敦賀での仲秋の名月を心待ちにしていたという。当神宮を初めとする敦賀の地では数多くの句が残される。本文に「けいの明神に夜参す」とあり、本名称にて指定を受ける。

「名月や北国日和定めなき」
「月清し遊行の持てる砂の上」

元禄2年(1689)8月14日(陽曆9月27日)夕刻敦賀入りする、快晴。芭蕉は旅籠出雲屋(現敦賀市相生町)に宿をもつ。「あすの夜もかくあるべきにや(明日も晴れるでしょうか)」芭蕉の問いに出雲屋主人は「北陸の天気は変わりやすい。明日はわかりません。今夜のうちに(氣比神宮へ)参りませんか。」と答える。それならばと夜参りに出かけ月見を堪能する。翌朝(8月15日)は主人の言葉通り雨天、「名月や…」と句に残す。また、時宗2代目遊行上人が正安3年(1301)この地を訪れた際、境内西側が沼地で参詣者が往来に苦勞する姿を見、上人自ら海岸より砂を運び水溜りを埋め立て参道整備した故事を聞く。(現在でも時宗本山の清浄光寺の法主交代の折には当宮でお砂持ちの儀式が執り行われる)この話に感銘した芭蕉は「月清し…」と句を残す。中鳥居正面に芭蕉像と句碑が立つ。



芭蕉像 境内図F



句碑

行幸啓奉幣及祈願

当宮は、往古より皇室の御尊崇深厚にして、歴朝の奉幣また行幸啓極めて多い。(以下、主となるを記す)

宝亀元年 (770)	中臣葛野連飯麿を遣わして奉幣
承和6年 (839)	神祇少副大中臣朝臣磯守を遣わして奉幣
寛平5年 (893)	菅原道真朝臣を遣わして奉幣
延久元年 (1069)	橘朝臣李任を遣わして奉幣
弘安4年 (1281)	蒙古襲来により使を遣わして奉幣
正応年中 (1288-1289)	異族来襲の聞えあり宮司勅を奉じ祈請
元禄14年 (1701)	合祀1千年祭執行に当り、青蓮院宮御社参、神馬1疋、太刀1振献ぜられる
同年	尊祐法親王より「正一位勲一等氣比大神宮」の扁額ご奉納
明治11年 (1878)	天皇陛下御神拝、幣帛神饌料を奉らる
明治22年 (1889)	憲法発布奉告祭のため勅使参向奉幣
明治37年 (1904)	日露宣戦奉告祭に勅使参向奉幣
同年	有栖川宮威仁親王御染筆の国宝大鳥居の扁額ご奉納
明治42年 (1909)	東宮殿下(大正天皇)御参拝、松樹の御手植を遊ばさる
昭和14年 (1939)	東久邇宮稔彦親王殿下御参拝
昭和41年 (1966)	常陸宮殿下同妃殿下御参拝
昭和43年 (1968)	天皇皇后両陛下御親拝御幣帛を奉らる
昭和62年 (1987)	天皇陛下本殿遷座祭にあたり幣帛料を奉らる
平成3年 (1991)	天皇皇后両陛下北陸行幸の際幣饌料を奉らる
平成14年 (2002)	御祭神合祀1300年式年大祭にあたり幣帛料を奉らる
平成21年 (2009)	天皇皇后両陛下植樹祭、福井県行幸の際幣饌料を奉らる
平成22年 (2010)	天皇陛下応神天皇1700年祭にあたり幣帛料を奉らる



氣比大神の神使白鷺と氣比の松原

神様にはそれぞれ神使(諸神の使者の意で、多くはその神に縁故のある鳥獣虫魚の類である)がおられるが、氣比の大神の神使は白鷺である。聖武天皇の御代、天平20年(748)10月、異国船襲来の情報がしきりに伝えられ、敦賀にも愈々賊船(渤海使)が現れた。11月11日夜、敦賀の天地に大鳴動が起り、櫛川の浜辺に数千本の松原が忽然と出現し、その梢に「白鷺」が群集した。これを見た賊船は大軍の軍旗と見誤り退散したと云う。(氣比宮社記より) この松原とは、今の氣比の松原のことで往古より氣比神宮の神領であった。後に渤海使は主に両国の文化交流及び経済活動へと目的を変えて松原沿岸に到着した為、勅により松原客館が建設され渤海使停宿の処としてこれを氣比神宮宮司が検校した。



氣比の松原 [名勝 三大松原]

境内神社

角鹿神社 [つぬがじんじゃ] 境内図 G

摂社、祭神 都怒我阿羅斯等命 (つぬがあらしとのみこと)、式内社、崇神天皇の御代、任那の皇子の都怒我阿羅斯等氣比の浦に上陸し貢物を奉る。天皇氣比大神宮の司祭と当国の政治を任せられる。その政所 (まんどころ) の跡にこの命を祀ったのが当神社で現在の敦賀もとの地名は「角鹿」でこの御名による。往古東門口が表通であったため氣比神宮本社の本門と云われる。



角鹿神社

大神下前神社 [おおみわしもさきじんじゃ] 境内図 H

末社、祭神 大己貴命 (おおなむちのみこと)、式内社、敦賀市内氣比大神四守護神の一つとしても天筒山麓に鎮座されていたのを明治年間現在の地に移転、稻荷神社と金刀比羅神社を合祀し、特に海運業者の信仰が篤い。



大神下前神社

兒宮 [このみや] 境内図 I

末社、祭神 伊弉冊尊 (いざなみのみこと)、平安朝時代、花山天皇寛和2年(986)9月20日遷宮の事が残されており、その以前より御鎮座の事があきらかである。徳川時代から子宝祈願を始め安産の神と称され、更には小児の守神として信仰が篤い。拝殿には、母子大小の狛犬が御護りする。



兒宮

猿田彦神社 [さるたひこじんじゃ] 境内図 J

末社、祭神 猿田彦大神、安永4年(1775)の御鎮座と云われる。氣比大神の案内をされる神で表参道北側にある。一般に庚申様と唱えて信仰が篤い。



猿田彦神社

神明両宮 [しんめいりょうぐう] 境内図 K

末社、祭神 天照皇大神 (内宮)、豊受大神 (外宮)、外宮は慶長17年(1612)3月28日、内宮は元和元年(1615)9月28日それぞれ勧請奉祀されたものである。



神明両宮

九社之宮 [くしゃのみや] 境内図L

境内の西方に位置し、御本殿を向い九社の神社が鎮座する。古来より氣比大神の御子神等関係の神々をお祀りする社として崇敬され、九社之宮として知られる。

天利劔神社 [あめのとつぎじんじゃ]

祭神は天利劔大神。式内社、仲哀天皇当宮に参拝、宝劔を奉納せられ靈驗いと奇しと云う。後に祠(ほこら)を建て天利劔宮と称え奉り御神徳をさずかる崇敬者は多い。

天伊弉奈彦神社 [あめのいざなひこじんじゃ]

祭神は天伊弉奈彦大神(あめのいざなひこのおおかみ)。式内社で續日本後記に、承和7年(840)8月越前國從二位勲一等氣比大神御子無位天利劔神、天比女若御子神、天伊佐奈彦神、並從五位下を奉授せらるとある。

天伊弉奈姫神社 [あめのいざなひめじんじゃ]

祭神は天比女若御子大神。式内社、社家伝記に、伊佐奈日女神社、伊佐奈日子神社は造化陰陽の二神を祀りしものなりと云う。古来縁結びの御神徳が顕著である。

伊佐々別神社 [いささわけじんじゃ]

祭神は御食津大神荒魂神(みつけのおおかみあらみたまのかみ)。当宮奮記によれば「古来漁捕の輩之を尊敬し奉る」とある。この社殿が北面しているのは漁撈を守る神であるから、北方の海を向いているのだと伝えられている。往昔応神天皇皇太子の時当宮に参拝され、夢に大神が現れ御名を易(か)うる事を約しまた仰せの通り翌朝浜に出てみると筒飯の浦一面に余程の御食(みけ)の魚(な)を賜わった。天皇大いに嬉び給うと共に御神威を辱なみ、武内大臣に命じて新たに荒魂(あらみたま)を勧請崇祀せしめられたのがこの社である。

擬領神社 [おおみやつこじんじゃ]

社記に武功狭日命(たけいさひのみこと)と伝え、一説に大美屋都古神(おおみやつこのかみ)又は玉佐々良彦命(たまささらひのみこと)とも云う。奮事紀には「蓋し當國國造の祖なるべし」と載せてある。

鏡神社 [かがみのじんじゃ]

神功皇后角鹿に行啓の際種々の神宝を当宮に捧げ奉った。其の中の宝鏡が靈異を現わされたので別殿に國常立尊(くにのとこたちのみこと)と共に崇め奉り天鏡宮(あめのかがみのみや)と称え奉ったと云う。慈悲の大神として知られる。

金神社 [かねのじんじゃ]

素盞鳴尊(すさのおのみこと)を祀り、家内安全の神とされている。垣武天皇延暦23年(804)8月28日、僧空海当宮に詣で、大般若経1千巻を転読求法(てんどくごほう)にて渡唐を祈る。嵯峨天皇弘仁7年に復び詣でて当神社の靈鏡を高野山に遷して、鎮守の社とした。即ち紀州高野山の氣比明神はこれである。

林神社 [はやしのじんじゃ]

林山姫神(はやまひめのかみ)を祀る。福德円満の大神として崇敬者が多い。延喜式所載の越中國礪波郡林神社は当社と御同体である。垣武天皇延暦4年(785)勅に依り僧最澄氣比の宮に詣で求法を祈り、同7年再び下向して林神社の靈鏡を請ひ比叡山日吉神社に遷し奉った。即ち当社が江州比叡山氣比明神の本社である。

劔神社 [つるぎじんじゃ]

御祭神は姫大神尊(ひめのおおかみのみこと)、剛毅果断の大神として往古神明の神託があったので、筋生野村(旧敦賀郡)からここに勧請し奉ったと伝えらる。



九社之宮

氣比の長祭(けえさんまつり)

9月2日宵宮祭(よいみやさい)、3日神幸祭(しんこうさい)、4日例大祭、5日より後日祭、10日祭を経て、15日の月次祭を以て終るので氣比の長祭として有名である。境内及び神宮前商店街には露店興業が軒を列ね、練山引山が出され、期間中は市内各種団体の神賑奉納行事があり北陸一帯はもとより、京都、大阪、滋賀、愛知等、各府県からの参拝者頗る多く、北陸の歴史的年中行事として著名である。3日の神幸祭には御鳳輦(ごほうれん)をはじめ氏子各町の神輿が市中を巡幸渡御になり市内一円は各種行事で賑わいを見せる。市民全参加により敦賀祭りとも呼ばれる。



宵宮祭[よいみやさい]

神幸祭前日9月2日には翌日からの祭に備える宵宮祭が本殿にて執り行われる。その日大鳥居前には各町内の宵山(曳山)が候し、子どもたちの日本舞踊が厳かに奉納される。現在では、御影堂前(みえどうまえ／神楽町)が御奉仕し、神宮前は祭り一色に染まって行く。



宵山



神幸祭 [しんこうさい]

9月3日。拝殿にて神事が執り行われ発御。御鳳輦の前後には、猿田彦、犬神人(つるめそ)と呼ばれる各町内の甲冑武者、稚児、騎馬、供奉員等の長い行列が伴って巡幸し、氏子地域へ広く大御稜威を頒かつ伝統的神事である。夕刻帰還。



神幸祭巡幸

神輿渡御 [みこしとぎよ]

9月3日。前日、神宮本殿より神霊を神輿へ奉遷し清祓を受ける。当日氏子各町より大小16基の神輿が大鳥居前に揃い、その後、勇ましい掛け声を伴って各町内を賑々しく渡御する。



神輿渡御



例大祭 [れいたいさい]



9月4日。年間で最重儀なる祭典。大宝2年(702)仲哀天皇と神功皇后を祭神として合祀したと云われる此の日(旧暦8月4日)が例祭日となる。神社本庁より献幣使が参向し幣帛料を賜わる。古式に則り例大祭は本殿で厳粛に斎行される。



神楽舞

山車巡行 [やまじゅんこう]

9月4日、昼。市内各町の山車が大鳥居前より勇壮な装飾を纏い町内を巡行する。敦賀の山車巡行の歴史は古く、室町時代にまで遡ると云われる。敦賀36町のうち、1町で何基も山車を曳くこともあり、多い年では全町50余台もの数で賑わったと伝わるが、惜しくも戦災によりその多くは焼失するに至った。平成に入り3基が復元され、現在では6基の山車が華々しく巡行し、敦賀祭りを盛り上げている。



神事

古神札御焚上祭 [こしんさつおたきあげさい]

1月15日。旧年の神の御加護に感謝し、古い神札、お守、正月注連飾り等をお焚き上げる神事。毎年小正月当日、午前7時の火入神事に始まり、その日夕刻鎮火する。



古神札御焚上祭

節分祭 [せつぶんさい]

2月3日。午前11時本殿で節分祭が斎行された後、拝殿にて豆撒き神事が執り行われる。節分の豆撒きは立春の前日に全国各地で行われ、この季節の変わり目に邪気を祓うという伝統行事である。当神宮の豆撒きには毎年大勢の参詣者で賑わう。



節分祭

大祓 [おおはらい]

— 夏越 [なごし]・年越 [としこし] —

一年を半期に分け、6月30日には半年の清め祓いと夏を無事に乗り越え健やかに過ごすことを祈願。また12月31日は下半期の清め祓いと心身ともに清々しく新年を迎えられるよう祈願し、参列者が一列となり、茅の輪(ちのわ)を潜る。



茅の輪潜り

御田植祭 [おたうえさい]

【特殊神事】

6月15日。旧神領地である敦賀市津内の篤農家が奉仕。平安時代より行なわれ1000年以上の伝統に支えられ、田長以下苗乙女が古伝の神楽歌を口ずさみ豊穰を祈願する特殊神事である。現在は近隣氏子町内有志が協賛する。



御田植祭

牛腸祭 [ごちょうさい]

【特殊神事】

6月16日。氏子各町が毎年輪番にて牛腸番を受持ち奉仕。大前で祭典を執行し、行列を整えて斎館に入り、当年の例祭練山曳山等の次第を米くじで決定し一旦帰宮、再び斎館で当番区は山海珍味を饗応する。女子禁制でその他厳重な制度があり類稀なる特殊神事である。

総参祭 [そうのまいるのまつり]

【特殊神事】

7月22日(旧暦6月中卯日)に神儀(しんぎ)を船形の神輿に奉遷し発御、御幸浜(みゆきはま)にて御座船(ござぶね)「神宮丸」に奉安、神功皇后御航行の盛儀を模し、氣比大神の御用漁師たる敦賀湾の漁業家が和船に分乗して神宮丸の曳航(えいこう)を奉仕し、対岸の常宮神社(旧摂社)に神幸する。供奉船(くぶせん)も伴い上下総て神事に加わるので「ソウノマイリ」という。曳航を一度奉仕すれば3年の豊漁に恵まれるという信仰をもち、この日敦賀湾は禁漁日とされる。暫く常宮神社に奉遷し夕景還御。尚、発御前日、即ち寅の日の夜には国家安泰、海上安全を祈る寅の神事、奉還の儀及び献灯の儀が神宮本殿にて執り行われる。(現在の新暦では7月22日の前日に斎行)



総参祭

年中祭典・行事一覧

- ▶ **若水祭** 1月1日 午前0時
延命長寿と称えられ、毎年元旦の午前零時に汲みとられた長命水が神前に献じられ、生活の第一歩が始まる当社ならではの縁起の祭りである。
- ▶ **歳旦祭** 1月1日 午前8時
元旦の早朝に行われる年の初めの祭儀。
- ▶ **元始祭** 1月3日 午前10時
宮中三殿を始め、伊勢の神宮、旧官國幣社で斎行される天皇の位の元始を寿(ことほ)ぐ祭。
- ▶ **古神札御焚上祭** 1月15日 午前7時
旧年の神の御加護に感謝する神事。
午前7時の火入神事に始まり、その日の夕刻鎮火。
- ▶ **節分祭** 2月3日 午前11時
立春前日に行われる除疫の祭事。
- ▶ **紀元祭** 2月11日 午前11時
神武天皇御即位の礼を祝い、國の繁栄、世界平和を祈る祭。
- ▶ **祈年祭** 2月17日 午前11時
年の豊穡を祈る祭。
最も重要な祭典の一つで「としごいのまつり」とも云われる。
- ▶ **御誓祭(みちかいまつり)** 3月6日(旧暦2月6日)
仲哀天皇2年2月6日、筍飯(氣比)大神を参拝、兇賊退治の事を祈られる。天皇深く此の地を愛し「此地に宮居を定め永く居らん。」と誓われた故事に因る神事。
- ▶ **御名易祭(みなかえまつり)** 3月8日(旧暦2月8日)
神功皇后摂政13年2月、皇后の命に因り、応神天皇(皇太子)が角鹿(敦賀)の氣比大神を詣で、同夜、大神が夢に現れ太子の名易(名変え)の事を告げられた話に因る神事。
- ▶ **昭和祭** 4月29日 午前10時
昭和天皇御生誕を祝賀する祭。
- ▶ **角鹿神社初卯祭** 5月初卯日 午前11時
境内社角鹿神社例祭。
- ▶ **春季例祭** 5月4日 午前10時
恒例の春祭。
- ▶ **御田植祭** 6月15日 午後2時
田植前行われる豊作を祈る祭。
1000年以上の伝統を持つ当神宮の特殊神事。
- ▶ **牛腸祭(ごちょうさい)** 6月16日 午前11時
9月例祭の練山曳山の次第を米くじで決める特殊神事。
- ▶ **夏越大祓式** 6月30日 午後3時
上半期の罪穢を祓う神事。
- ▶ **総参祭** 7月22日 午前10時
祭神神功皇后が角鹿から遠征航行した故事を模し、海を渡り対岸の常宮神社へ神幸する祭。
- ▶ **神幸祭(しんこうさい)** 9月3日 終日
例祭前日、市内を鳳輦、各町内の神輿、山車が本殿より神霊を船型神輿に奉還し市内を巡幸する。
この日市内は、各種奉賛行事で賑わいを見せる。
- ▶ **例大祭** 9月4日(旧暦8月4日) 午前11時
大宝2年(702)8月4日。勅して六柱の神々を合祀して以来、この日年に一度の重儀である大祭(例祭)を執り行なう。
例祭前2日宵宮から15日月次祭終了迄を氣比の長祭りと言う。
- ▶ **大神下前神社例祭** 10月10日 午後3時
(おおみわしもさきじんじゃ)
境内社大神下前神社例祭。
- ▶ **神嘗祭当日祭** 10月17日 午前9時
収穫された由貴の大御饗を天照大御神に捧げ奉る伊勢の神宮の祭に際し、同日当神宮で祭儀を執行する。
- ▶ **明治祭** 11月3日 午前9時
近代日本の礎を築かれた明治天皇の御聖徳を称え、御生誕を祝う祭。
- ▶ **兒宮(このみや)例祭** 11月15日
境内社兒宮例祭。
- ▶ **七五三祭** 11月15日前後の期間中
神のご加護に感謝するとともに、この後も心身ともに健全な育成を祈り、併せて社会人としての教養をなす事を誓う人生儀礼。
- ▶ **新嘗祭** 11月23日 午前11時
宮中の儀式で天皇が新穀を天神地祇に供して感謝し、自らも食される祭。全国の各神社にて執行されている。2月の祈年祭に対する祭。
当神宮では、県内農協を通じて多くの篤農家より本年の新穀のご奉納を戴いている。
- ▶ **お替・煤払い神事** 12月15日 月次祭後
本殿はじめ境内神社、大鳥居、中鳥居、回廊等を祓い清めて年迎えをする神事。
- ▶ **天長祭** 12月23日 午前10時
天皇の御生誕を慶祝し、聖寿の万歳と国家の安寧、長久を祈る祭。
- ▶ **年越大祓式** 12月31日 午後3時
一年の罪穢を除く祓えの神事。
境内の茅の輪をくぐり、知らずのうちに身に付いた罪穢を除き去り、心身を引き締めて新年を迎える。
- ▶ **除夜祭** 12月31日 午後8時
年の終わりの祭、年越祭。
- ▶ **献燈祭** 12月31日 午後11時
年明けに際し境内灯籠に火を灯す祭。

[毎朝御日供祭、毎月1日朔旦祭、15日月次祭、
干支の庚申日に猿田彦神社祭、その他臨時祭を随時斎行]

御祈願祭

車の交通安全、商売繁盛、厄除、家内安全、お子様の初宮詣、七五三詣、その他の人生儀礼、出張祭等 幅広く毎日御祈禱を御奉仕致しております。団体での御参拝も承ります。詳しくは神宮社務所へお問い合わせ下さい。



祈願祭

交通安全祈願後、お車をお祓い申し上げます。



車御祓所

七五三詣は、11月15日を中心に10月下旬より常時受付けております。千歳飴等の記念品は、御祈禱後お頒ち致します。



七五三詣



授与所

開設時間 毎朝8時30分より夕方4時45分頃。
御祈禱の受け付けもこちらです。



授与所 境内図 M

御朱印・神札・御守り

越前國一之宮の御朱印、祭神御神徳と長命水縁起による「長命守」、大鳥居柄入の「錦守」、仲哀天皇、神功皇后夫婦御神縁に因る「縁結び守」等は授与所でお頒ち致します。



多くの参詣者の願いが絵馬に込められております。



神前結婚式

緑豊かな神宮の神域で、我が国の伝統を継承した神前式にて永遠の絆を誓う。北陸道総鎮守ならではの厳粛で格式高い挙式を御奉仕致します。



参進



当神宮神前式では、雅楽の生演奏により寿の舞(巫女舞)をご奉仕いたします。



儀式殿は、約40名のご参列が可能です。

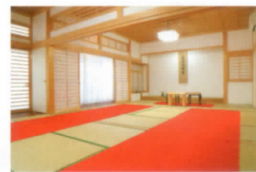


儀式殿

式場のご見学や詳細等につきましては、お気軽に社務所までお問合せください。

境内披露宴

神前式の後は、境内の会場で思い出に残る婚礼披露宴を。どうぞ、お気軽にお問合せ下さい。



斎館(控室)



喫茶ゆーかり(売店)・神水苑

店内喫茶ご利用、お持ち帰り、どうぞお気軽にご来店下さい。



ゆーかり **境内図 N** 神水苑入口

当神宮境内は、名水湧出の地で敦賀でも特に水脈の中心に位置しております。



お水取り



亀の池に整備された神水苑はお水取りの参詣者で賑わいます。

氣比神宮境内案内図



アクセス

▼公共交通機関をご利用の場合
JR 北陸本線「敦賀駅」下車
徒歩約 15 分
または駅前よりバスにて約 5 分
「福鉄バス」「コミュニティバスはぎ号」「ぐるっと敦賀周遊バス」のいずれかをご利用の上、氣比神宮前停留所下車

▼自動車の場合
北陸自動車道「敦賀 IC」より約 5 分
駐車場無料 (100 台) [大鳥居わき・境内東]



▼開・閉門時間
午前 6 時～午後 5 時



天筒山(てづつやま) 氣比大神降臨の地

名月
小國日記
遊りのつらさ
砂の上



氣比神宮社務所 発行

平成 29 年 6 月 [第 4 版 第 1 刷]
〒914-0075 福井県敦賀市曙町 11-68
TEL. 0770-22-0794
FAX. 0770-22-0786
<http://kehijingu.jp>

編集・印刷 / 有限会社 ネットワークつるが
<http://network-tsuruga.com>